

研究課題(テーマ)	チャレンジ the ものづくり		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	パステル工房企画管理運営委員会	委員長	大島 徹
研究結果の概要			
< 遂行内容 > ものづくりへの興味を涵養するために、見学から実践までの体験型教育を行うこと、見学および実践を通し、学生同士が協力し合い、学科を越えた交流を図ること、本取組みを広く公開し、大学の活性度評価の向上に寄与することを目的として、パステル工房が保有する設備の紹介とそれらを利用した製作体験を実施した。 興味・関心を持つ動機付けとなる見学を含めた基礎コース、難易度の高い課題に挑戦できる応用コースを設定した。 基礎コースは、各種ゼミの時間帯などを利用して学生が参加しやすいよう、随時開催を基本とし、9ゼミから合計115名の参加があった。 応用コースは、開催案内チラシを準備し、基礎コース参加者や各種ゼミなどで広く参加を募った。9月20日～29日の平日8日間開催し、風鈴、写真立て、リングピロー、スマホスタンドの4テーマに合計19名の申込み、15名の参加があった。 < プログラムによる成果 > 見学を中心とした基礎コースは、教養ゼミの一環として取り組むゼミが多く、多くの学生が参加した。応用コースは参加者がやや少なく、参加学生の所属学科の偏りもあったが、安全を重視しつつきめ細かな指導が行え、参加学生の評価は非常に良好であった。 今年度も幅広い学生にものづくり体験の契機を十分に提供でき、近年では触れることが少なくなりつつあるものづくりを体感するという教育効果があったと思われる。			
今後の展開			
アンケートの結果からは、満足度の高さからうかがえるが、能動的に参加しようとする学生が少なかったように思われる。また、参加して初めて興味・関心を抱く学生も多いようである。開催時期やテーマについて見直しつつ、参加を促す方策を検討し、ものづくり教育を継続する。			